

# 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和5年10月13日  
枚方市立菅原東小学校

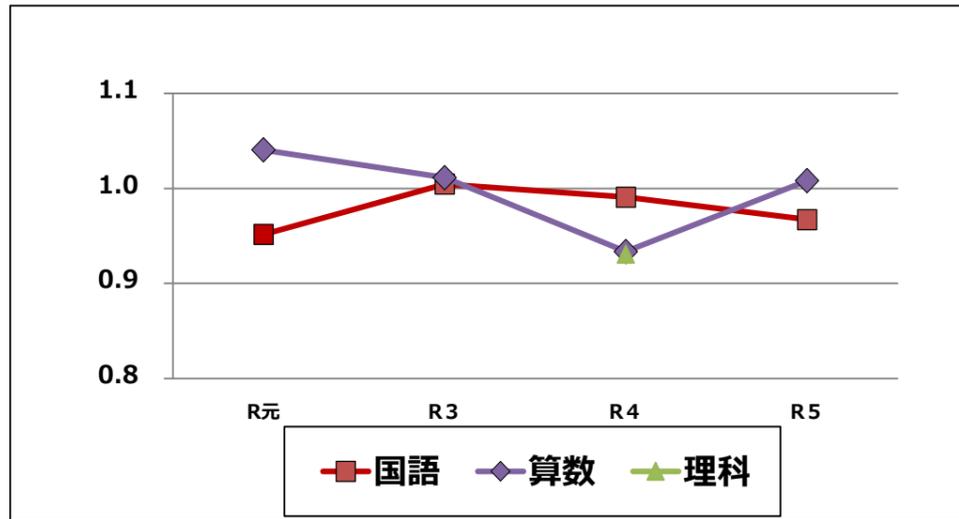
文部科学省が今年4月に実施した、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、子どもたちの生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

## 【全体概要】

### 学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較(対全国比)をお知らせします。

#### (全国の平均正答率を1とした経年比較)



※令和2年度は中止のため、掲載していません。また、理科は令和元年、令和3年度、令和5年度未実施のため、掲載していません。

#### <学力調査結果の概要>

##### ○国語について

→情報と情報を関連付けることに関する設問は、全国平均に比べ、よくできていました。また、自分の意見を表現することもよくできていました。しかし、論理的に表現することに課題が残ります。

##### ○算数について

→変化と関係や変化の特徴を読み取り、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察することはよくできていました。また、図形についてもよく理解できていました。ただし、理由を記述することや、言葉と数を用いて表現することに課題が残ります。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

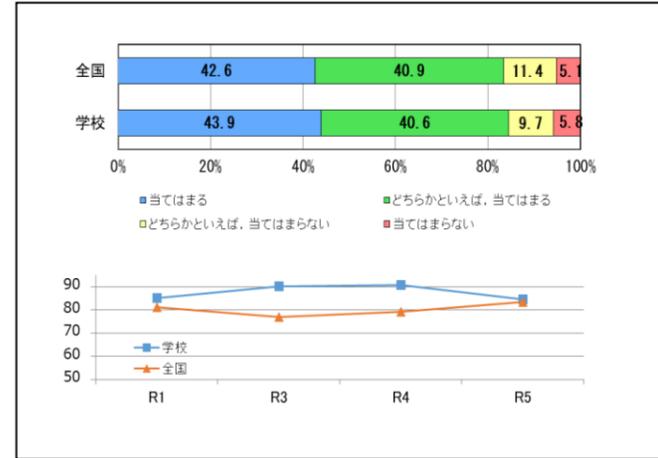
## 質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。  
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。  
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

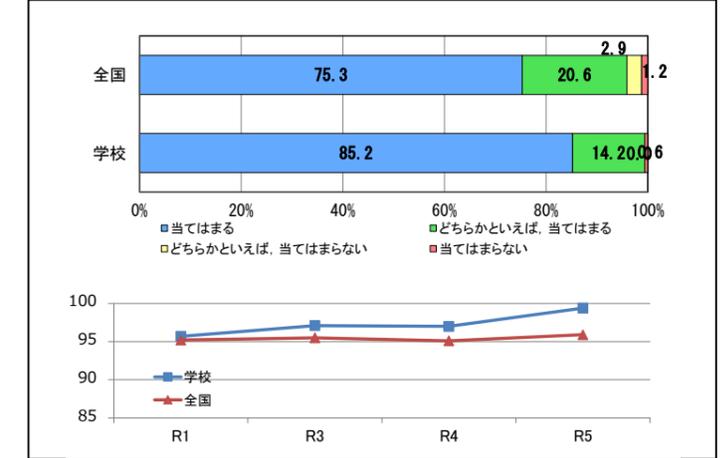
質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

▲ 全国  
■ 本校

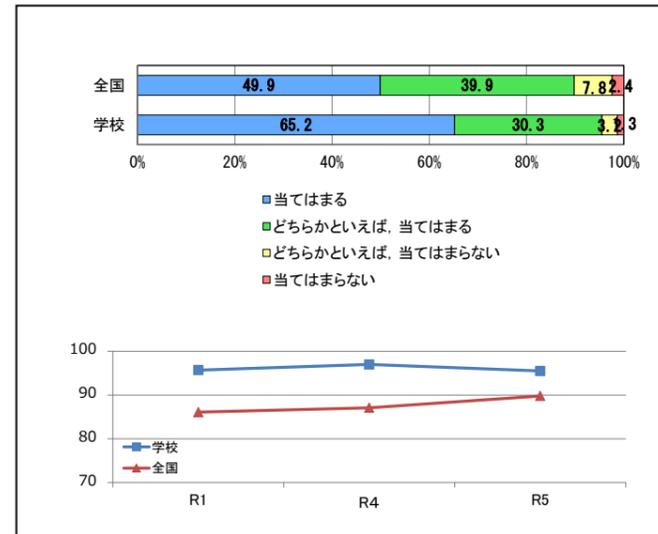
自分にはよいところがある。



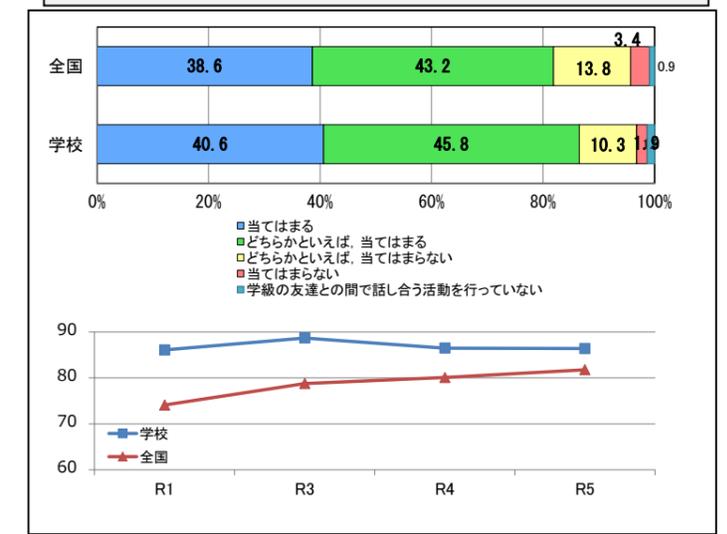
人の役に立つ人間になりたいと思う



先生は、あなたのよいところを認めてくれますか。



学級の友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。



#### <質問紙調査結果の概要>

○「自分にはよいところがある」については、肯定的な回答が昨年に比べ少し下がり、84.5%でしたが、「人の役に立つ人間になりたいと思う。」は、99.4%と非常に高く、昨年度に学習したSDGsの学習の効果もあり、社会参画の意識が育っています。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれますか。」についての肯定的回答は95.5%であり、今後も子どもたちの良いところをほめて伸ばしていきたいです。

○「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」についての肯定的回答は86.4%で、「対話的な学び」や「協働的な学び」が、子どもたちの中でも「深い学び」につながっていると考えます。

#### まとめ

学力については、国語も算数も、与えられた条件を使って記述することや論理的に表現することに課題が残ります。今後は、思考力・判断力・表現力をさらに養うことが必要となります。そのためにも、問題解決能力の育成を図っていきます。

# 【詳細について】

## 教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるか。

川村さんは、学校の米作りの問題点とその解決方法について書くこととしています。あなたが川村さんなら、どのように書きましますか。あとの条件に合わせて書きまします。

★学校の米作りの問題点について、グラフ（農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量）と「カード④」のそれぞれから分かることを書くこと。

★問題点の解決方法については、「カード⑤」をもとにして書くこと。

★六十字以上、百字以内にとめて書くこと。

問題を掲載してください。

	正答率	無解答率
本校	28.6	4.5
全国	26.7	7.1

（考察）

多くの教科で「対話的な学び」や「協働的な学び」を取り入れ、「思考・判断・表現」する力を育成しています。その結果、意見をグラフや記述された内容にそってまとめ、表現する力がついてきたと考えられます。この設問においては、無解答率も低く、子どもたちが、自身の意見を持ち、表現できたことが成果だと考えられます。今後も、「対話的な学び」や「協働的な学び」を充実させていきます。

<算数>

成果や課題があった設問

【成果】

台形の意味や性質について理解しているかどうか。

(1) ゆいさんは、下のようにテープを直線で切って、①、②、③、④のような四角形をつくりまします。



①、②、③、④について、どのような四角形なのかを、次のようにまとめまします。

①、②、③、④はどれも ① です。  
なぜなら、② だからです。

上の①にあてはまるものを、下の 1 から 5 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きまします。また、上の②にあてはまるものを、下の 6 から 10 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きまします。

- 1 長方形
- 2 正方形
- ① 3 台形
- 4 平行四辺形
- 5 ひし形
- 6 向かい合った 2 組の辺が平行な四角形
- 7 向かい合った 1 組の辺が平行な四角形
- ② 8 4 つの辺の長さが等しい四角形
- 9 向かい合った辺の長さが等しい四角形
- 10 向かい合った角の大きさが等しい四角形

	正答率	無解答率
本校	68.8	1.3
全国	59.8	0.7

（考察）

上の直線と下の直線が平行であるテープから切り取られた四角形を台形と捉えることができた児童の割合が、全国よりはるかに高く、図形の構成の仕方を観察して、図形について判断する力がついていると考えられます。5、6年生の算数では、少人数指導を行い、問題解決型学習に取り組んでいます。その成果が、図形の構成の理解にもつながったと考えられます。

【課題】

目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるか。

谷さんの学級では、学校ボランティアの人たちを全校にしようかというために、自分の相手を決めてインタビューをすることになりました。谷さんは、寺田さんと山本さんにインタビューをしました。

【インタビューの様子】

谷さんは、寺田さんと山本さんの二人が、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことを話そうとしています。あなたが谷さんなら、どのように話しますか。次の条件に合わせて書きまします。

（条件）

★寺田さんと山本さんの二人が、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことを書くこと。

★【インタビューの様子】の、寺田さんと山本さんの発言の中から言葉や文を取り上げて書くこと。

★書き出しの言葉に続けて、四十文字以上、六十文字以内にとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は、字数にはふくまない。（書き出し）はじめは、見守りボランティアの仕事は大変なことばかりだと考えていましたが、↓書く部分

	正答率	無解答率
本校	54.5	19.5
全国	70.2	14.3

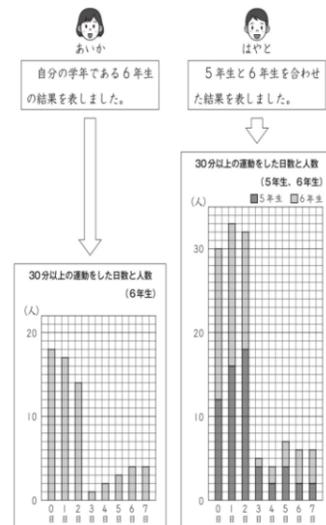
（考察）

この設問は、本校において無解答率が高く、全国的にも無解答率が高い設問でした。その要因は、「書き出しが決まっていることに加え、2人の発言の中から言葉や文を取り上げて書くこと」が難しかったのだろうと思います。上記の成果のあった設問と同じ記述式で、考えをまとめることを見取る設問であっても、問題文から言葉や文を抜き出す読解力や論理的な表現の組み立てが必要とされる設問でした。今後も、授業において、意見を交流し、自己の考えを深めることに加え、根拠を示して、論理的に相手に伝える活動を大切にいきます。

【課題】

示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と数を用いて記述できるかどうか。

(3) あいさんたちは、5年生と6年生に運動カードを配って調べた結果をポスターにのせるために、30分以上の運動をした日数と人数をグラフに表すことにしました。



そこで、あいさんたちは、日数に着目して、2つのグラフのちがいを、次のようにまとめました。

【「0日」についてまとめたこと】

「0日」に着目すると、次のようになります。6年生のグラフでは「0日」の人数が1番目に多く、5年生と6年生を合わせたグラフでは「0日」の人数が3番目に多いです。

【「0日」についてまとめたこと】と同じように、「1日」に着目してまとめると、次のようになります。下の□の中に、「6年生のグラフ」「5年生と6年生を合わせたグラフ」「0日」の3つの言葉と数を使って書きまします。

【「1日」についてまとめたこと】

「1日」に着目すると、次のようになります。

※ 解答は、すべて解答明紙に書きまします。

	正答率	無解答率
本校	53.9	15.6
全国	56.2	13.8

（考察）

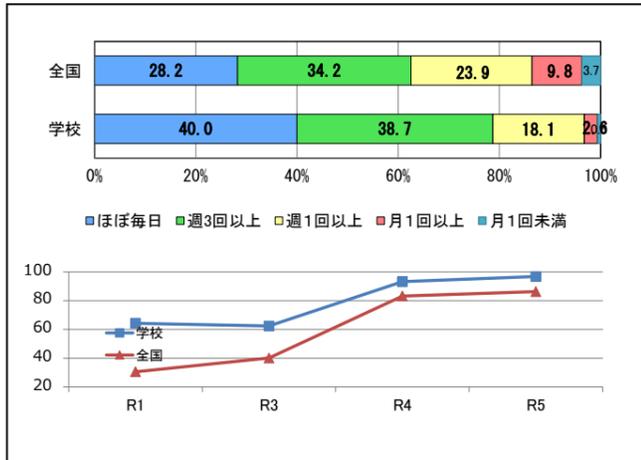
「0日」についてまとめたこと」の例にならって、「1日」に着目し、2つのグラフから読み取ったことを記述する設問でした。無解答率が高いことが課題です。データを整理する観点に着目し、身の回りの事象について表やグラフを用いて考察して、見出したことを表現することを定着させる必要があります。今後は、類似する問題や課題に取り組んでいきます。

# 質問紙に関する調査

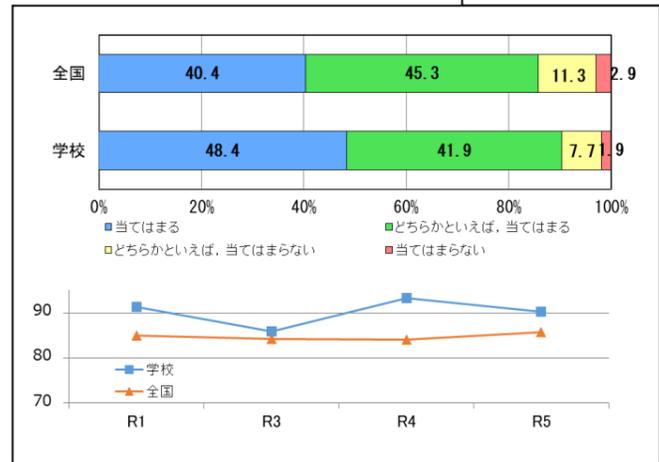
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。  
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。  
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は 100 にならない場合があります。

## 【成果のあった項目】

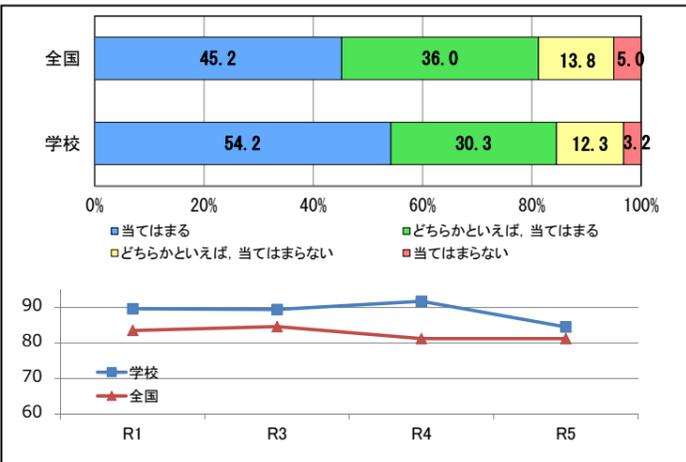
5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。



国語の授業の内容はよくわかる。



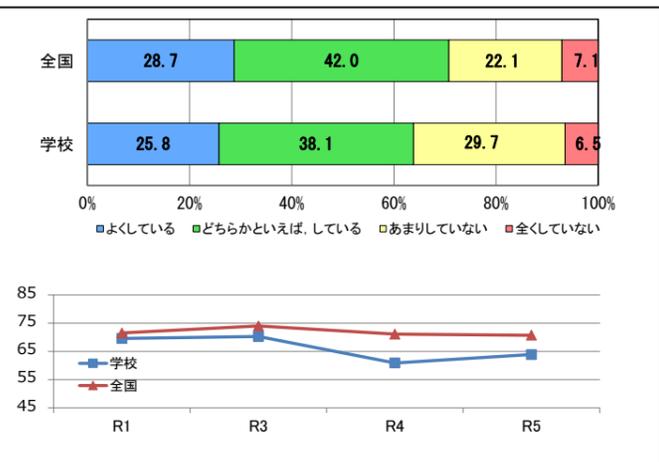
算数の授業の内容はよくわかる。



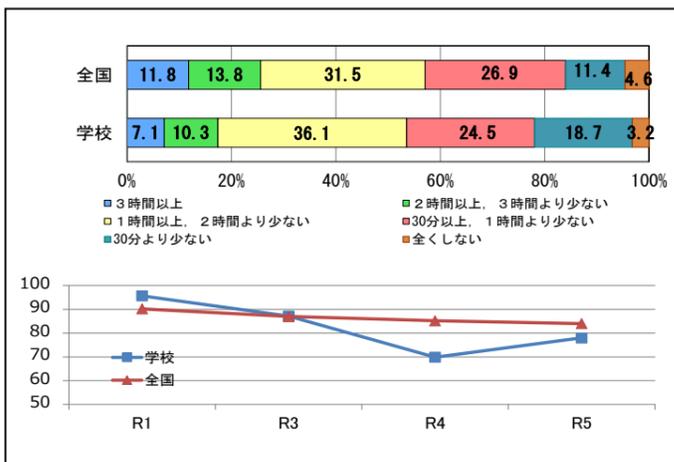
(考察)  
 ○タブレットを使った学習は定着し、授業の中でも、調べてまとめるだけでなく、意見を書いたり、自分の意見を交流するために使用しています。子どもたちの情報活用能力は高いと思われます。  
 ○「国語や算数の授業内容はよくわかる」についての肯定的な回答は、国語で 90.3%、算数で 84.5%でした。授業の理解や学習に向かう姿勢は、おおむね良好です。今後も子どもたちが学びやすい学習集団づくりや授業改善に努めていきます。

## 【課題が残った項目】

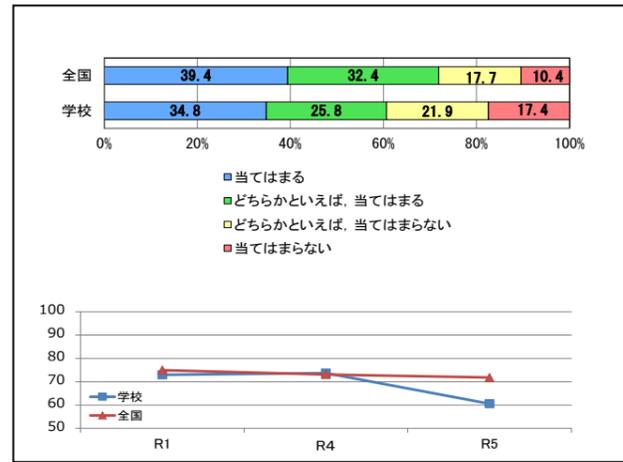
自分で計画を立てて勉強している



授業時間以外、普段（月～金）1日の勉強時間



読書は好きですか。



(考察)  
 ○「計画を立てて勉強する」については、肯定的回答が全国を下回り、子どもたちが主体的に学習する取り組みや手立てが必要であると考えます。また、「家庭学習の時間」については、昨年度に比べてわずかに改善傾向にありますが、全国に比べるとやや低い傾向にあります。  
 ○読書については、本年度低くなっています。図書の時間を大切にし、本に触れ、読書に親しむ習慣をつけていきたいです。

## 分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

### (1) 授業改善について

- 引き続き、「Hirakata スタandard」による授業づくりを実践し、子どもたちの基礎基本の定着と学習活動の充実を図ってまいります。
- 授業の中で、タブレットを使用し、「5つのC」【Challenge(挑戦), Communication(意思伝達), Collaboration(協働), Creativity(創造), Critical thinking(思考判断)】の視点を大切に活動を行っていきます。
- すべての子どもにわかりやすくするために、「ユニバーサルデザイン」をもとにした学習環境整備に努めていきます。
- 今年度の校内研究テーマは、「自ら考え、判断し、行動する、主体的に学ぶ児童の育成～学ぶ側に立った授業の実践を求めて～」です。国語科を中心に校内研究や研究授業を行っています。
- 子どもたちの問題解決能力を伸ばすために、単元目標にそって逆向き設計で授業を計画し、各単元における身に付けたい力を育てていきます。
- 「対話的な学び」や「協働的な学び」を推進し、自己の考えを深め、再構築する力を育成していきます。
- 算数科において、少数指導(5.6年のみ)を充実させ、ひとりひとりの学習支援を行ってまいります。
- 外国語(英語)教育において、JET(英語教育指導助手)やNET(Native English Teacher)、インターンシップの留学生とチームティーチングによる授業を行い、英語への興味関心を培い、コミュニケーション能力の育成を図ってまいります。

### (2) 家庭学習について

- 引き続き、「自学ノート」の取組を行い、見本となるノートについては、廊下に掲示し、子どもたちの学習意欲を喚起してまいります。
- 平日の宿題や週末の宿題等、引き続き、学年に応じた家庭学習になるよう、学習するための課題の充実を図ってまいります。

### (3) その他

- 「読書」については、お話キューピットさんにより「絵本の読み聞かせ」を行っていただいております。絵本の読み聞かせは、子どもの想像力を育み、豊かな心を育てます。
- 第5学年で、社会科の学習と関連づけ、SDGsについての学習を行っています。SDGsについては、問題解決型の思考力と社会参画の意識を育てます。